

令和3年度 農山漁村振興交付金(地域活性化対策)のうちの人材発掘事業) 事業実施主体 評価一覧

1. 事業評価の実施

令和3年度に実施された「農山漁村振興交付金(地域活性化対策)」の事業について、「農山漁村振興交付金(地域活性化対策)実施要領」(平成30年3月28日 29農振第2262号農林水産省農村振興局長通知(令和3年4月1日付け改正 2農振第3780号))第18の2規定に基づき、評価を行ったので、その結果を公表する。

2. 事業評価結果の総括

令和3年度に交付金事業を実施した5事業について、取組の実施状況、成果等を総合的に評価した。
その結果、全ての事業で優良と認められるとの評価結果となった。

3. 各事業の評価結果

●地域活性化対策のうち人材発掘事業(農村体験研修の実施)

4件

事業実施主体名	評価	評価コメント
一般社団法人九州のムラ	A	総合的に目標の達成状況が優良と認められる。
日本航空株式会社	A	総合的に目標の達成状況が優良と認められる。
株式会社JTB	A	総合的に目標の達成状況が優良と認められる。
一般社団法人全国農協観光協会	A	総合的に目標の達成状況が優良と認められる。

(注)「評価」の区分: A・・・優良 B・・・良好 C・・・低調

●地域活性化対策のうち人材発掘事業(情報の発信及び共有)

1件

事業実施主体名	評価	評価コメント
株式会社時事通信社	A	総合的に目標の達成状況が優良と認められる。

(注)「評価」の区分: A・・・優良 B・・・良好 C・・・低調

4. 第三者機関の意見聴取

農山漁村振興交付金(地域活性化対策)実施要領第18の2の規定に基づき、第三者機関である「農山漁村振興交付金(都市農村交流等)評価委員会」を組織し、評価に当たり意見の聴取を行った。評価委員会の委員及び開催概要は以下のとおり。

【評価委員会 委員】

委員長: 大江靖雄(東京農業大学教授)

委員: 落合基継(早稲田大学准教授)、嵩和雄(國學院大學准教授)、金子洋二(大正大学准教授)

【令和4年度評価委員会の開催概要】

第1回評価委員会
1 日時: 令和4年7月26日(火)13:30～15:20 2 場所: 【Web会議】 3 議事概要 ① 令和4年度評価対象事業の評価方法について 本年度の評価方法について説明し、了承を得た。 ② 令和4年度評価対象事業の評価について 令和3年度に実施した5事業について、取組概要及び評価案に関して説明し、質疑応答を行った。 4 主な意見 ・就農に意欲をもった人の割合や公式WEBサイトへの訪問者数などの目標の達成率が高いが、そもそもの目標値の設定が低すぎるのではないか。 ・氷河期世代の割合が5割に達した事業者について、研修参加者数は4事業者の中で最も少なく、辛うじて事業を実施できた印象。総合評価はA評価(優良)とするが、事業実績の評価としては優良とは言い難く、良好としたい。
第2回評価委員会
1 日時: 令和4年8月24日(水)9:30～10:40 2 場所: 由良町観光地域づくり協議会会議室 3 議事概要 ① 令和4年度評価対象地区の評価について 令和3年度に実施した5事業について、評価案等に関して、了承を得た。

4 主な意見

- ・研修生の参加者数そのものだけでなく、事業終了後の研修生の移住や新規就農、自主的な再来訪などの人数は、事業による農山漁村との関わりの創出を表す重要な評価指標であると考えられる。
- ・研修参加者数だけでなく、地元の人と地域外の人を結びつけて相互の信頼関係を構築していくプロセスが重要。今後、モデル化又は標準化ができれば、関係人口創出の方法論として他地域にも応用できる。地域の課題解決に効果的な助言を与えることもできるのではないか。
- ・未知の地域に出会った人が次第に関係を深め、やがて移住に至るにはステップがあると想定される。このような移住に至るステップを考慮した事業の実施により、そのステップを具体的に描き出すことが可能となるのではないか。
- ・他方で、そのようなステップは画一的ではなく、本事業による成果を見ても研修後の研修生ごとに多様なルートがあることが分かる。個々のステップを解き明かしていくことが重要ではないか。